

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2023年3月

第107号

「市民の力で湧水自然を守る・柏市こんぶくろ池物語」第2版発行

萩原 秀夫

2011年に、NPO 法人こんぶくろ池自然の森とアドバイザー会議の連名で、千葉日報社から千葉学ブックレットのシリーズとして、「市民の力で湧水自然を守る・柏市こんぶくろ池物語」（以後「池物語」）を発行いたしました。

この本は、

- ① 先生方専門家を中心に執筆された貴重な資料であり、湧水など非生物的環境の特徴、歴史的背景、植生の特徴など、こんぶくろ池自然博物公園の基本情報が記されている
- ② NPO で作成したハンドブック、リーフレットには池物語の内容を引用している
- ③ 現状と異なる部分があるが、NPO が活動を開始した時点の状況を伝える貴重な資料である

ということで、NPO の新規会員のみならず、最近では明治大学、東京農業大学などの学生さんが活動に参加されることも増えてきており、公園を理解いただくバイブルとして活用されています。今後も保全活動を担う会員等、次世代に継承していきたい内容となっています。

しかし、昨年夏の時点で残部が30部を切っている状況であったため、上田さん、橋本谷さん、浦久さんを中心とした編集委員会を立ち上げ、内容の訂正箇所の確認、アドバイザーの千葉大学小林先生による「第2版の発行にあたって」の挨拶文（1月のこんぶくろ池通信にてご紹介）のご寄稿、「初版発行から第2版発行までの歩み」において、初版発行以降の出来事や、2022年時点の現状の追記文作成を中心に改訂作業を行ってまいりました。

そして先日増刷分400冊が届きましたので、皆さんにご報告させていただきます。

この本は柏市、教育委員会、小・中学校、市内の県立・私立高校、大学、図書館本館、分館の他、NPO の関係各所にも寄贈させていただく予定です。

また、管理棟において寄付をいただいた来園者等にもお渡ししたいと思っておりますので、会員の皆様も是非ご覧ください。



ネイチャークラフト展

海野 直樹

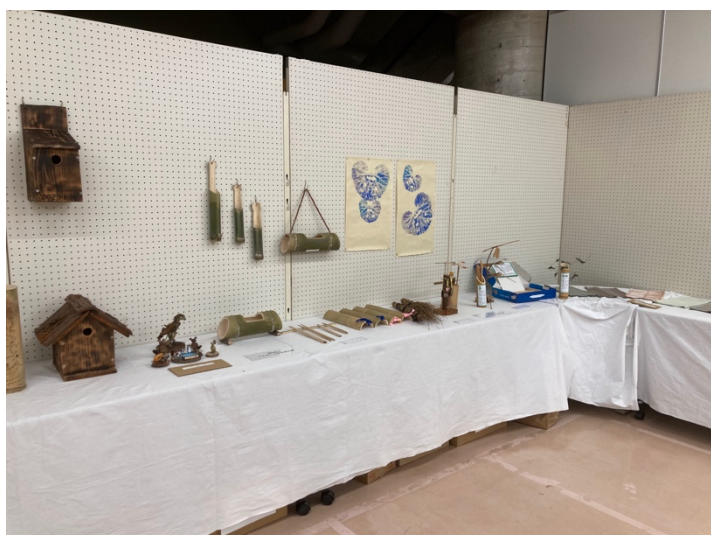
今回のクラフト展に、私は「こんぶくろ池と仲間たち」というテーマで当園ゆかりの動物達（タヌキ親子、ウサギ、モグラ、オオタカ親子、おまけでトトロ3兄弟）のクラフト作品を出品させていただきました。

私は日頃より木の実やドングリ等、クラフト等の素材になりそうなものを収集しています。クラフト作品は観賞するのも楽しいのですが、作品を作る過程が何といても楽しいのです。自分がイメージしているもの（動物等）を完成するためにあれこれ材料を検討する、組み立て方を検討する、その過程がなんともワクワクし楽しいのです。

特に子供はドングリや木の実を使って自ら作品を作ることによって自然を身近に感じるようになっていきます。子供はその成長段階のある時期（2歳から7、8歳ころ）において全ての対象を「心を持つ存在」と思ってしまう傾向があります。皆さんもお子様小さいころ、

そういう会話をしませんでしたか（たぬきさんもお母さんが好きなんだね…とか）。これは幼児期特有の自然観であり「アニミズム」といいます。ドングリに手で触れて動物等のクラフトを作るとは、転がったままで発芽できなかったドングリに自らの手で新しい命を吹き込むことになり、自然の大切さ、命の大切さに自らの体験より気づいていきます。

子供達はクラフト材料を与えるとその旺盛な創造力を発揮して大人が考えつかないような素晴らしい作品を作ります。小さいお子様がいるご家族はぜひとも親子一緒（親の方が夢中になってしまうことも）にクラフトを体験していただきたいと思います。



あしがき

ロシアのプーチン大統領の詭弁には呆れてしまっていますが、コロナ禍が収まりつつあることは朗報です。さても、こんぶくろ池自然の森には平和で豊かな自然環境が保たれていることに幸せを感じます。

今回は、自然の森をこよなく愛する皆さん、延べ12名の方から俳句十一句、短歌十五首の作品が寄せられました。

令和4年冬期は延べ9名の方の応募でしたが、今期は延べ12名の方の応募となり、同好の士は着実に増えております。

俳句・短歌というと何となく堅苦しく思われる方が多いようですが、じつは、普段の話し言葉の基本が七五調で、会話を切り取って配置を考えてみると五七五の俳句、五七五七七の短歌になります。作句・作歌をすることで、頭を使い老化防止にもなるのです。

ここで思い切って俳句・短歌の世界へ一歩踏みだしませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。次回は春季（3月～5月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールでも結構ですので応募して下さい。

2月理事会

(日時) 2023年2月25日(土) 13:00～17:00

(場所) 管理事務所

(出席者) 議長(理事長) : 岡本

出席理事 : 中川、徳永、萩原、上田(書記)

1. 審議検討・確認事項

(1) 来年度(2023年度)に向けての課題の検討について

- ① 第2回会員向けアンケート(定例活動日の変更)の結果報告
アンケート結果を踏まえ、来年度の定例活動を次のように設定する
 - i. 来年度から班別の定例活動日を設けず、当面は毎月第1土曜日・第3&第4日曜日の月3日を定例活動日としてスタートし、不都合等が生じた場合は検討する
 - ii. 臨時活動日が必要な場合は、必要に応じて実施する
- ② 来年度の役員等執行体制及び会計担当について→継続検討
- ③ 来年度のイベント計画
 - ・ ファミリー参加を想定したイベントとして、銘板作成と取り付けのワークショップを11月実施に向けて検討してゆく(園内伐採木を使用した銘板の試作、ひもの素材、表示方法など)
 - ・ 上記および、1月理事会で検討した標本展示会(6月上旬)、夜の昆虫観察会(7月)について、T-SITEとの共催が可能か打診する
- ④ 第1回会員向けアンケート結果を踏まえた来年度の変更事項
 - i. 当番手当及び除草手当の支給額アップ
 - ii. 契約当番における夏季及び冬季の変更
(現行) 夏期4月～10月・冬期11月～3月→(変更)
夏期4月～9月・冬期10月～3月
- ⑤ 2022年度の活動報告会(論文&調査報告書合体の資料集の

作成のみとなる予定)

- (2) 年度末業務遂行計画及び第14回通常総会準備について
- ① 柏市への報告書提出 (～3/31)
 - ② 第14回通常総会準備
 - ・ 総会開催、書面決議のどちらで開催するかについては3月の理事会で決定する
 - ・ 3月中旬に、開催日時の案内を手交及び配信予定
 - ・ 書面決議方式の場合、4/5頃迄に資料作成、4/10頃迄に資料手交 OR 郵送
 - ③ 千葉県への報告書提出 (4/末までに作成して5月上旬までに郵送)
- (3) 今年度予算の執行状況について
- ・ 2月末までの執行状況の確認 他
- (4) (3月開催)「里山の保全活動体験会」の準備状況について
- ・ 申し込みあり、受付を継続中
- (5) ナラ枯れ被害木対応状況について
- ・ 現時点での状況を報告
 - ・ 園路際の伐採木が多い地点に、説明板を設ける
- (6) 「(千葉学ブックレット)池物語」第2版の納品について
- ・ 2/15 第2版 400冊及びCD 納品完了
 - ・ 寄付先及び寄付金記入表の確認
 - ・ 第2版完成と配布開始の案内は、こんぶくろ池通信で行う
- (7) 「契約当番による水位計測・記録」の実施について
- ・ 来年度から実施する
 - ・ 安全を考慮し、計測はロープ柵の外側から行う(宗像さん寄贈の双眼鏡を使用)
- (8) 子供連れを含めた来園者が楽しめるスペースの提供について
- ・ 先ずは管理棟前にある既存の遊びスペースが活用できるよう整備する
- (9) 鎌などの手入れについての講習会の開催について
- ・ 来年度初めに、道具の手入れについての講習会を実施する
 - ・ 鎌、鋸、刈込鋏など、道具の適正管理のため、以下2点を行うようにする
 - i. 整備や修理が必要な道具を分別して整備・修理を行うために、受付箱を設置する
 - ii. 道具を使用した場合は、必要に応じて、使用者が活動終了前に30分程度の整備時間を確保する。使用者が対応できない場合は、受付箱に入れる。
- (10) 3～4月活動計画
- ・ 3月の体験会、ナラ枯れ被害木伐採の現状を踏まえて協議し情報を共有した
- (11) 3月の通信記事
- ・ 掲載記事について協議

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。